

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ほっぶ南区		
○保護者評価実施期間	令和8年1月15日		～ 令和8年1月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	令和8年1月15日		～ 令和8年1月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月25日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの特性に応じた個別支援計画の作成と、それに沿った一貫した支援が行われている点	半年に1回の面談や日々の行動観察を通じてアセスメントを行い、職員間でミーティングを重ねながら個別支援計画を作成・共有している。	モニタリング時の視点をさらに整理し、支援のねらいや成果をより明確にしながら計画の質の向上を図っていく。
2	職員間の連携が取れており、チームで支援を行う体制が整っている点	支援前後の打合せや月1回のミーティングを実施し、その日の支援内容や児童の様子を共有している。	急な欠勤等にも対応できるよう、役割分担や情報共有方法の整理を進め、安定した支援体制の維持に努めていく。
3	保護者との情報共有が丁寧で、信頼関係が構築されている点	連絡ノートや送迎時のやり取りを通じて、日々の様子や成長、困りごとを具体的に伝えている。	面談や保護者会等の機会を活用し、より双方向のコミュニケーションを意識した支援を継続していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員配置や急な欠勤時の対応に不安が残る点	職員数が限られており、急な休みが出た際に補助要員の確保が難しい状況がある。	業務の優先順位整理や支援内容の見直しを行い、少人数でも安全に支援が行える体制づくりを検討していく。
2	地域交流や関係機関との連携が十分とは言えない点	児童の特性上、イレギュラーな交流が難しいことや、外部機関との接点が限定的であることが背景にある。	交流の形にこだわらず、情報共有や助言を受けられる機会を段階的に設け、無理のない地域連携を模索していく。

3	職員研修や外部評価の機会が限定的である点	日常業務が中心となり、研修参加や外部評価の導入に十分な時間を確保しづらい。	法人内研修や情報共有の場を活用し、職員の資質向上と支援の振り返りにつなげていく。
---	----------------------	---------------------------------------	--